

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 宇部・小野田保健医療圏

対象医療機関名: のむら大腸肛門クリニック

資料 4 - 2

1 地域の状況			
地域の現状と課題		宇部・小野田保健医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和6年度病床機能報告を比較すると、急性期が808床、慢性期が155床過剰である一方で、回復期が215床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期19床を保有しているが、稼働率が低い状況が続いており、病院全体の経営資源の最適化を図る必要がある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期病床19床のうち、9床を削減する。 患者のことを考えると、合併症に対応する病床は必要だが、削減対象の病床は、従前より病床に近い状態が続いており、削減後の病床に資源を集約し経費削減につなげることで、入院医療の継続に資するものとする。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床数は、急性期9床。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり ・ 協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		ここ数年、入院患者が10人を超えることがなかったため、削減後の病床数を10床としている。資源を集約し、病床の稼働率を向上させることで、継続的な入院医療を今後も提供できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期						
急性期			△ 9	2025/9/30		△ 9
回復期						
慢性期						
合 計			△ 9			△ 9

【参考: R6病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	378	1,745	664	1,219	48	4,054
	②R7 (2025)予定	378	1,700	697	1,231	48	4,054
構想	③R7 (2025)必要数	328	937	879	1,064		3,208
④構想との差(R6) (①-③)		50	808	△ 215	155	48	846
⑤構想との差(R7) (②-③)		50	763	△ 182	167	48	846

対応方針（2025プラン）の変更（のむら大腸肛門クリニック）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R6 現在	R7 予定	医療機関の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期			・ 4 機能のうち急性期機能が中心。	・ 大腸・肛門患者への対応を中心とした急性期 医療の提供体制は維持していく。	高 度 急性期			令和 7 年 9 月 末実施予定
急性期	19	19			急性期	19	<u>10</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	19	19			合 計	19	<u>10</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：宇部・小野田保健医療圏

対象医療機関名：医療法人社団宇部中央病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		宇部・小野田保健医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和6年度病床機能報告を比較すると、急性期が808床、慢性期が155床過剰である一方で、回復期が215床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、急性期299床(高度急性期を含む)、回復期85床を保有している。看護師不足のなか、増加している宇部小野田医療圏の救急に十分に対応するため、急性期入院料1を2に転換したうえで、更に病床の一定数を削減し看護師配置を効率化する必要がある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期10床を削減する 削減理由は、以下の通り。 ①6床室の解消 ②看護職員を適正に再配置、さらに効率的な病床運営を行う	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期10床(4部屋)で、一部屋あたり6病床である。患者のストレスを軽減しプライバシーを守るため、他病床と同様の4床(一部2床)に変更する。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床は10床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		未稼働の病床を対象としている。削減後の残り374床に人的資源を再配置することで、従来通り、高度急性期、救急医療などを継続的に提供できる。また新興感染症対応も可能である。地域全体としても、過剰と見込まれる急性期病床の削減は、人口減少に対応すべき地域医療構想の実現に資すると考える。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期						
急性期			△ 10	2025.9.30		△ 10
回復期						
慢性期						
合 計			△ 10			△ 10

【参考：R6病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休養・廃止予定	合計
報告	①R6(2024)現状	378	1,745	664	1,219	48	4,054
	②R7(2025)予定	378	1,700	697	1,231	48	4,054
構想	③R7(2025)必要数	328	937	879	1,064		3,208
④構想との差(R6)(①-③)		50	808	△ 215	155	48	846
⑤構想との差(R7)(②-③)		50	763	△ 182	167	48	846

対応方針（2025プラン）の変更（宇部中央病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容					備考 （対応方針の実 施予定時期等）
機能 区分	R6 現在	R7 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行	変更後	
高 度 急性期	62	62	・ 5 疾病 6 事業のうち、脳卒中、心血管疾患、がん、糖尿病、救急医療、新興感染症医療を担う。 ・ HCU、脳疾患治療センターを中心とした高度急性期及び急性期医療を担う。	・ 高齢化、人口減少に加え、医療従事者の減少、医師の働き方改革への対応等により、医療資源の効率的活用がより一層重要となるため、急性期病床を一部削減し、手厚い医療・看護体制を担保、救急医療・専門医療を強化する。 ・ 緊急性、専門性の高い一部の疾患については、宇部・小野田・美祢医療圏はもとより、医療圏域外からの救急受け入れをさらに促進し、二次救急病院としての使命を果たす。 ・ 後方支援病院・施設等との連携を強化し、転院搬送等をより一層促進する。	高 度 急性期	62	62	令和7年9月 末 実施予定
急性期	237	237			急性期	237	<u>227</u>	
回復期	85	85			回復期	85	85	
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	384	384			合 計	384	<u>374</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：宇部・小野田保健医療圏

対象医療機関名：山口大学医学部附属病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		宇部・小野田保健医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和6年度病床機能報告を比較すると、急性期が808床、慢性期が155床過剰である一方で、回復期が215床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、高度急性期310床、急性期403床を保有している。 しかし、看護師等の人材確保が困難な状況が続いており、令和7年7月現在、一般病床9床が休床状態である。 現在、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期1床を削減する 削減理由は、 ①看護師等の人材不足によって、人員配置を適正化する必要が生じたため ②現在当該病床は休床状態であり、限られた人的資源で業務効率化を図る必要があるため	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期1床で現在休床状態のものである。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床は13床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		上記のとおり、従前より休床状態である病床を削減するにすぎない。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期		計
高度急性期						
急性期			△ 1	2025.9.30		△ 1
回復期						
慢性期						
合 計			△ 1			△ 1

【参考：R6病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病床区分	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	合計
報告 ①R6 (2024)現状	378	1,745	664	1,219	48	4,054
②R7 (2025)予定	378	1,700	697	1,231	48	4,054
構想 ③R7 (2025)必要数	328	937	879	1,064		3,208
④構想との差(R6) (①-③)	50	808	△ 215	155	48	846
⑤構想との差(R7) (②-③)	50	763	△ 182	167	48	846

対応方針（2025プラン）の変更（山口大学医学部附属病院）

病床機能報告における 病床数（7月1日時点）			対応方針（2025プラン）の内容				備考 （対応方針の実 施予定時期等）	
機能 区分	R6 現在	R7 予定	病院の特徴・役割	今後の方針	機能別病床数（2025）			
					機能 区分	現行		変更後
高 度 急性期	310	310	・ 5 事業（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病、精神疾患）及び5 事業（救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療）の政策医療を担う。	・ 特定機能病院として、高度の医療技術の開発及び高度の医療に関する研修を実施する。 ・ 特定機能病院、肝疾患診療連携拠点病院、がん診療連携拠点病院及び総合周産期母子医療センターとして、2次医療圏の範囲を越えた地域の住民を対象として、専門性の高い医療を提供する。 ・ 山口県内唯一の医育機関として、山口県の実情に応じた教育体制を構築する。	高 度 急性期	310	310	令和7年9月 下旬実施予定
急性期	403	403			急性期	403	<u>402</u>	
回復期					回復期			
慢性期					慢性期			
休 棟					休 棟			
合 計	713	713			合 計	713	<u>712</u>	

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名：宇部・小野田保健医療圏

対象医療機関名：小野田赤十字病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		宇部・小野田医療圏では、回復期の病床が少なく、地域包括ケア病棟の整備や急性期病床からの転換等による回復機能の確保を行う必要があり、他にも後方支援病院の確保や多職種連携による地域包括ケアシステムの構築が必要となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、地域包括ケア病棟や療養病棟を抱え、回復期から慢性期への円滑な移行ができるよう努めており、同敷地内に老人保健施設と介護医療院を併設し、退院後のケアにも力を入れている。令和4年度に療養病床を削減して効率的な運営を心掛けてきたが、医療職の離職に歯止めが効かず、再び適切な病床運営が難しくなってきたため、この度慢性期である療養病床を段階的に削減し最終的には廃止することとした。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	療養病床全52床の内、46床を削減し6床を休床とする。 削減理由として、 ①限られた看護師等の医療資源を最大限に活用し、持続可能な地域医療提供体制を確保するため。 ②急性期病院からの受け皿として必要な手厚いケア部門の充足のために、休床した6床を地域包括ケア病棟へ転換させ、療養期から回復期への病床再編を図るため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減対象としている病床は、療養病棟入院基本料Ⅰである慢性期病床であり、高齢者を対象とした病床である。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床は4床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由		削減した療養病床の機能を付帯施設である介護医療院にシフトさせるため、この7月より老人保健施設を介護医療院へ転換し全96床の介護医療院としたため、入院医療の継続に支障はない。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6	削減時期	R7	削減時期	R8	削減時期	計
高度急性期							
急性期							
回復期					6	2027/3/31	6
慢性期	△ 46	2025/3/31			△ 6	2027/3/31	△ 52
合 計	△ 46						△ 46

【参考：R6病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病 床 区 分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休床・廃止予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	378	1,745	664	1,219	48	4,054
	②R7 (2025)予定	378	1,700	697	1,231	48	4,054
構想	③R7 (2025)必要数	328	937	879	1,064		3,208
④構想との差(R6) (①-③)		50	808	△ 215	155	48	846
⑤構想との差(R7) (②-③)		50	763	△ 182	167	48	846

病床数適正化事業による病床削減について

構想区域名: 宇部・小野田保健医療圏

対象医療機関名: 美祢市立病院

1 地域の状況			
地域の現状と課題		宇部・小野田保健医療圏について、地域医療構想の必要病床と令和6年度病床機能報告を比較すると、急性期が808床、慢性期が155床過剰である一方で、回復期が215床不足という状況である。人口減少・高齢化に伴う中長期的な患者像の変化に対応するため、地域全体として回復期機能の強化が課題となっている。	
2 自施設の状況			
自施設の現状 (変更前)		当院は、2024年7月に療養病床(慢性期)5床を削減し、同年10月に一般病床15床を回復期病床へ転換し、現在は、急性期36床、回復期45床、慢性期40床の合計121床を保有している。 療養病床5床を削減し、効率的な運営を心掛けてきたが、医師・看護師等の人材確保が難しく、適切な病床運営が困難な状況が続いている。 現在も、病院全体の人的資源をはじめとする経営資源の最適化を迫られている状況にある。	
病床数削減について	削減の内容 削減の理由について	急性期6床を削減する 削減理由は、 ①病棟及び病床機能を明確化することで、病床の更なる効率的な運用を図るため。 ②看護師等の人材不足に伴い、人員配置を適正化(回復期に注力)する必要が生じたため。	
	対象の病棟・病床の概要	削減する病床は、急性期6床で、以降は病棟内のベッド配置や運用の見直しを行い、重症観察室として使用する見込みである。	
	新興感染症に係る協定 締結医療機関の確保病床について	新興感染症に係る協定の締結の有無について	協定あり・協定なし
		今回の削減が当該協定の確保病床に与える影響について	医療措置協定における確保病床は2床であるが、今回、削減する病床は、当該確保病床ではないので、当該協定への影響はない。
3 病床削減をしても入院医療の継続に支障がない理由			
理由	削減後の残り115床に医師・看護師等の医療資源を最大限効率的に集約することで、持続可能な地域医療を提供できるものとする。 なお、地域全体として過剰と見込まれる急性期の病床を削減し、不足と見込まれる回復期病床に注力していくことは地域医療構想の実現にも資するものとする。		

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7	削減時期			計
	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	
高度急性期							
急性期	△ 6	2025/2/28					△ 6
回復期							
慢性期							
合 計	△ 6						△ 6

【参考: R6病床機能報告(宇部・小野田保健医療圏の状況)】

病 床 区 分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	合計
報告	①R6 (2024)現状	378	1,745	664	1,219	48	4,054
	②R7 (2025)予定	378	1,700	697	1,231	48	4,054
構想	③R7 (2025)必要数	328	937	879	1,064		3,208
④構想との差(R6) (①-③)		50	808	△ 215	155	48	846
⑤構想との差(R7) (②-③)		50	763	△ 182	167	48	846